

平成 26 年 教育課程全体会議 1 議事録

開催日時	平成 26 年 11 月 7 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分
会 場	本校格技場
運営者の説明および出席者の意見交流の事項	
〈教育課程全体会議にあたり〉 ・今回の教育課程全体会議にあたり、教育課程を変更する、変更しないに関わらずに今回の全体会議を行っていることを前提としてほしい。 ・本日の流れは、趣旨とアンケート状況の確認、グループ別に 20 分間の意見交流、グループごとのまとめを発表の項目ごとに繰り返して行う。 項目は、①授業時間の設定について（現状の 45 分授業なのか、50 分授業なのか）、②教科学習（国語、数学）について、③情報、職業（キャリア）の新設教科についての 3 点である。この 3 項目が重要となってくると考えている。 ・アンケート結果を基に全職員で話し合い、教育課程の改善・充実につなげたい。結果は反映できるところから、次年度の教育課程（週時程表）に盛り込んでいきたい。 〈授業時間の設定について〉 （1）趣旨とアンケート状況 ・本来行うべき 50 分授業の実施、現状の 45 分授業の実施、条件付きでの 50 分授業などの様々な意見がある。 ・50 分授業を実施するのであれば、寄宿舎や厨房の関係が問題となってくる。確認しているところでは、女子生徒の登校時間 8：35 から 8：25、男子生徒の登校時間 8：40 から 8：30 と、登校時間の 10 分間の変動が可能である。また、通学生の登校時間に関しては影響ない。給食時間では、12：10 から 12：15 の 5 分間の変動が可能である。生徒が登校後から給食時間を除くと流動的に変更は可能であることを了承してほしい。 ・50 分授業を行う中で、休み時間を設けるためにはどのような工夫が必要なのかを考えてほしい。現行では、2 校時目と 3 校時目の間に 5 分間の休み時間を設けている。 ・5 分間の授業時間を延長することで、どのような教育的効果があるのかを考えてほしい。 作業学習などで考えると、3 学年の水曜日の 1 校時から 4 校時の授業が現行の 185 分間から 200 分間の時間を確保できる利点がある。しかし、教科などの 1 コマのみの単発授業を行うときには移動時間などのデメリットがあるため、対応策が必要である。 （2）グループ別意見交換 ○1 グループ ・50 分授業と 45 分授業の 2 つの意見が出た。50 分授業では長い時間取り組むことで働く力を身につけることができるのではないか、45 分授業では休み時間を 5 分でも確保できた方がよいのではないか、教科であると 45 分授業で十分であるという意見が出た。今後、教科の時間が増えることになれば、50 分授業の中でメリハリをつけた授業が大切になり、指導者の力が必要となってくるのではないかと結論になった。 ○2 グループ ・不測の事態の対応を考えると 50 分授業がよいのではないかと意見が出た。50 分授業となると、更衣	

などの学習時間以外の時間が短くなることが懸念される。朝の登校をジャージ登校にするなどを視野に入れなければならないのではないか。

- ・休み時間は、生徒指導や移動教室などに活用していることもあり教員側の裁量になる。

○3 グループ

- ・45分授業がよいという意見が半数を占めた。45分授業では、移動時間を含めた休憩時間を設けることでメリハリがつくため必要であるという意見があった。50分授業としても、45分の授業を実施し、5分間で移動時間に充てるという考えもあるのではないかという意見があった。

○4 グループ

- ・50分授業がよいのではないかという意見が占めた。5分間を確保することが生徒への還元につながると思う。現在45分授業を行っているが、45分間の授業時間を確保できていない現状がある。休み時間はあれば生徒のためにはよいと考えている。

○5 グループ

- ・1コマの授業であると45分授業は短い、2コマ以上続く授業での50分授業は効果的ではないか。教員側の授業の組み立て方が重要になってくる。弾力的に授業を組み立てられるところが特別支援学校のよいところである。本校の実態を踏まえた上での授業の組み立て方を行っていくことが大切である。また、更衣やトイレの時間などの休み時間を確保していくべきではないか。

〈教科学習（国語、数学）について〉

（1）趣旨とアンケート状況

- ・1時間のみでは不足、何らかの理由で無くなってしまった場合は補填してほしい、2時間は必要だという意見が大半である。

○1 グループ

- ・増やした方がよいという意見が多い。国語と数学は働くためには必要な力であり、継続的に行い、定着させるには2時間は確保すべきであると考えられる。必要に応じては、放課後の活用も視野に入れるべきではないか。
- ・教科の時間が増加すると、何らかの授業は削らなければならないが、生単が対象ではないかと考えている。生単の内容を今一度、精査を行い、コミュニケーションに関わる分野は国語に含まれてもいいのではないか。また、既存学科と生活科のすみ分けも必要ではないか。

○2 グループ

- ・現在は、学問としての教科よりも社会生活に属したものが多く、系統的よりは単発的な内容ではないか。教科を増やすよりも生活する力を伸ばすことが大切なのではないか。また、作業学習との関連づけることも大切である。教員側の質の高い授業に重点を置いた方がよいのではないか。

○3 グループ

- ・現状のままでよいと考える。定着を考えると、4時間の確保がなければ難しいのではないか。現状では、計算ができてはかりを使用できないなどの生徒が多いように感じる。定着させるという観点で考えると、朝学習の導入がよいのではないか。登校時間を早めることで毎日実施すると5時間の確保ができるのではないか。

○4 グループ

- ・系統的な授業ができていないのが現状である。クリアするためには、2時間が必要ではないかと考える。国語と数学は就労で必要であり、その2時間を確保するためには、体力づくりや作業学習の時間を削る

ことになるのではないか。

○5 グループ

- ・2時間を確保するためには、現在の授業の中から2時間削ることになる。美術、体育、生単、作業学習が対象となるのではないか。
- ・時間を増やす前に、まずは国語と数学を時数通りに1時間しっかりと確保することが重要ではないか。確保できた上で、やはり時間が不足しているようであれば時数を増やすなどの話し合いを行うべきではないか。

〈「情報」や「職業（キャリア）」などの新設教科について〉

(1) 趣旨とアンケート状況

- ・まずは新設教科の必要性の有無について討論していただきたい。
- ・導入を仮定すると、1時間の単発の授業となるため継続性が必要となる。
- ・次年度からは時数カウントを開始する。何らかの理由で無くなってしまった場合は補填することを考えている。
- ・現1学年では、「職業（キャリア）」を総合の授業で行っている。現1学年は3年間継続して行い、どのような成果があるのかを見ることも必要なのか、もしくは、総合とは別に行った方がいいのかなどを含めて話し合ってほしい。現2学年は現行のまま生単で行うこととする。
- ・新設教科を設けると、必然的に時数が削られる教科が生まれる。現在検討しているのは、作業学習と体力づくりである。3学年は、作業学習を11時間から10時間、体力づくりは4時間から3時間。2学年は、作業学習を10時間から9時間、体力づくりを5時間から4時間。1学年は、作業学習を10時間から8時間、体力づくりを5時間の継続を考えている。水曜日の7校時目の委員会活動を授業とする。委員会活動、全校集会、HRを1つの時間として使うことを考えている。

(2) グループ別意見交換

○1 グループ

- ・「情報」ではローマ字、タイピング、情報モラルを学ぶ機会があり、よいのではという意見が出た。情報モラルを取り入れることで生徒指導にも役立つとも考えている。反面、就労先で必要な場面が無いために取り入れなくてもよいという意見もある。
- ・「職業（キャリア）」では、単発ではなく継続的に行うことが大切であり、1学年の総合の時間を使用して行ったことでどのような効果が見られたのかを知ることが必要ではないか。
- ・他の教科が入ることでは何かの教科が減ることになるが、本校では作業学習を売りにしていることもあり、作業学習を減らすことに疑問を感じている。

○2 グループ

- ・「情報」は必要だという意見があった。PC操作よりも情報モラルやマナーなどのトラブル防止の観点からの指導が大切ではないか。PC操作については、就労先で必要な生徒のみの個別対応でよいのではないか。
- ・「職業（キャリア）」も必要であるという意見があった。将来設計や将来について見通しをもてるということはよいことではないか。ただし、1時間などの時間を設定するのではなく、卒業間近のような期間限定的で、短期設定のように集中的に行うのはどうか。

○3 グループ

- ・「情報」や「職業（キャリア）」に関しては、はじめに生単の単元で設定し、有効的だと判断できた場合

に教科として設定してもよいのではないか。

- ・「情報」は、生徒の実態に合わせて携帯電話について取り扱った方がよいのではないか。

○4 グループ

- ・「情報」は、卒業生の実態などを踏まえて情報リテラシー教育が必要ではないか。1年間の実施ではなく半期での実施でもよいのではないか。
- ・「総合」は、卒業生の離職率を考えると、3年間の系統的な指導を行っていくべきではないか。

○5 グループ

- ・「情報」は、Lineなどの生徒指導上の問題も起こっていることもあり授業の一環として取り組むことが必要なのではないか。また、どの教員が指導を行い、年間計画を立てるのかというハード面だけではなくソフト面でも課題があるのではないか。
- ・「職業（キャリア）」は、生単とのすみ分けが必要となるのではないか。

〈総括〉

- ・「情報」や「職業（キャリア）」については、「情報」と「職業（キャリア）」の両者を半期ごとで実施することも検討している。
- ・新年度からどのように運用できるのか、2学期いっぱい意見集約を行っていきたい。教科を実施するにあたり、免許保有者の力が必要となってくる。全職員で協力して行っていきたい。
- ・次回の教育課程全体会議でも活発な意見交流を行っていただきたい。

上記のとおり会議を開催した。

平成26年 11月 7日

北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎 印